

南関東地域（農地周辺）における水辺環境エコロジカル・ネットワーク
形成による魅力的な地域づくり検討調査業務報告書

< 本 編 >

目 次

1. 業務概要	1-1-1
1-1 業務名	1-1-1
1-2 目的	1-1-1
1-3 業務対象範囲	1-1-1
1-4 業務内容	1-1-3
(1)生物生息状況調査	1-1-3
(2)生息環境評価マップの作成	1-1-3
(3)環境特性の整理	1-1-3
(4)農地環境に関する基礎調査	1-1-4
(5)農地周辺におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関する検討	1-1-4
(6)検討委員会等の資料作成	1-1-4
2. 調査結果	2-1-1
2-1 生物生息状況調査	2-1-1
(1)生物情報の収集・整理	2-1-1
(2)生物情報のレイヤ作成	2-1-1
(3)注目される生育・生息環境の整理表の作成	2-1-1
2-2 生息環境評価マップの作成	2-2-1
(1)生息環境評価マップ作製範囲の設定	2-2-1
(2)水路環境の整理	2-2-1
(3)土地利用区分の整理	2-2-1
(4)生息環境評価マップの作成	2-2-2
2-3 環境特性の整理	2-3-1

2-4	農地環境に関する基礎調査	2-4-1
(1)	課題の抽出・整理	2-4-1
(2)	農地環境の保全・再生に関する既往成果の収集・整理	2-4-4
2-5	農地周辺におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関する検討	
		2-5-1
(1)	豊岡・佐渡事例分析による農地周辺での採餌環境向上対策の検討	2-5-1
		2-5-1
(2)	南関東地域の農地周辺における餌生物供給ポテンシャルの評価	2-5-8
		2-5-8
2-6	検討委員会等の資料作成	2-6-1
(1)	第1回検討委員会資料（農地周辺）	
(2)	ワーキンググループ資料（農地周辺）	
(3)	第2回検討委員会資料（農地周辺）	

1. 業務概要

1-1 業務名

平成 21 年度 南関東地域（農地周辺）における水辺環境エコロジカル・ネットワーク形成による魅力的な地域づくり検討調査業務

1-2 目的

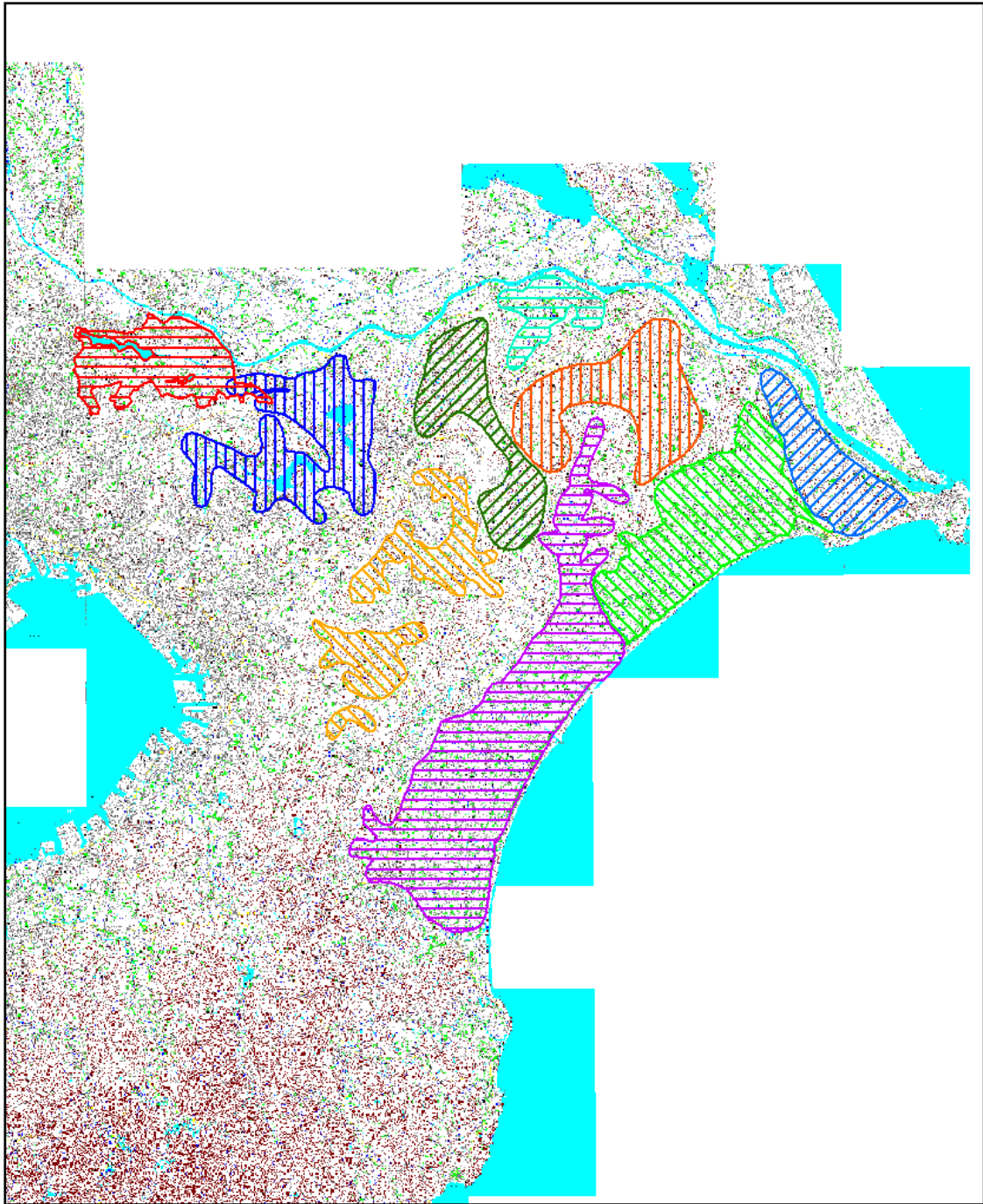
本業務は、南関東地域において、コウノトリ・トキを指標とした農地等における水辺や農村環境の保全・再生方策、及びコウノトリ・トキの野生復帰をシンボルとした魅力的な地域づくりとしての地域振興・経済活性化方策を検討し、これらを可能とするエコロジカル・ネットワーク（生態系ネットワーク）の形成に向けた広域連携モデルづくりの一環として、農業農村整備事業と密接に関わる水辺の生物の生息環境に関する情報を収集・整理し、地理情報として採餌環境条件等を評価することを目的とする。

1-3 業務対象範囲

業務対象範囲は、広域農業地域「利根川下流地域」を含む南関東地域約 100,000ha で、図 1 および表 1 に示す地域ある。

表-1 南関東地域関係県及び市町村

県名	市町村名
茨城県	古河市、霞ヶ浦市、常総市、取手市、守谷市、坂東市、稲敷市、つくばみらい市 8 市
栃木県	小山市、佐野市、野木町、藤岡町 2 市 2 町
群馬県	板倉町 1 町
埼玉県	川越市、熊谷市、行田市、加須市、東松山市、鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、坂戸市、吉川市、川島町、吉見町、騎西町、北川辺町、大利根町、栗橋町 11 市 6 町
千葉県	千葉市、銚子市、船橋市、野田市、成田市、佐倉市、東金市、旭市、柏市、市原市、袖ヶ浦市、流山市、八千代市、我孫子市、八街市、印西市、白井市、富里市、茂原市、匝瑳市、香取市、山武市、酒々井町、栄町、多古町、九十九里町、芝山町、横芝光町、東庄町、白子町、長南町、一宮町、睦沢町、長柄町、大網白里町、本埜村、印旛村、長生村 22 市 13 町 3 村



凡例

- | | | |
|---|--|--|
|  手賀沼地区 |  大利根地区 |  成田用水地区 |
|  印旛沼開発地区 |  両総用水地区 |  北総東部地区 |
|  北総中央地区 |  両総地区 |  東総用水地区 |

図2.1-1 業務対象範囲



また、広域農業地域「利根川下流地域（受益面積約 48,000ha）」は次の 6 つの国営土地改良事業地区および 4 つの水資源機構営事業により構成されている。

[国営土地改良事業地区]

- ・手賀沼地区
- ・印旛沼開発地区
- ・大利根用水地区
- ・両総用水地区
- ・北総中央地区
- ・両総地区

[水資源機構営事業地区]

- ・成田用水地区
- ・北総東部用水地区
- ・東総用水地区
- ・印旛沼開発地区

1-4 業務内容

(1) 生物生息状況調査

農業農村整備事業に密接に関わる水辺の動植物に関する情報を収集し、特殊性や希少性の観点から注目すべき生物の生物・生息環境に関する情報を整理する。

(2) 生息環境評価マップの作成

GIS ソフトを用いて、水路構造別・土地利用区別に受益範囲を区分し、幹線用排水路の生息環境としての現況を考慮し、同様の環境条件を有する範囲をゾーニングし、注目すべき生物の生息・生息環境に関する情報を追記して、生息環境評価マップを作成する。

(3) 環境特性の整理

生息環境評価マップのゾーニングのタイプごとに、その環境特性を整理する。

(4) 農地環境に関する基礎調査

南関東地域での農地周辺におけるコウノトリ・トキの生息条件に関する課題、採餌環境の保全・再生に貢献する施策の実施状況について整理し、コウノトリ・トキの採餌環境条件の分析を行う。

(5) 農地周辺におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関する検討

豊岡・佐渡の事例分析による農地周辺での採餌環境向上対策の検討を行うとともに、広域環境モデル地域の農地周辺におけるコウノトリ・トキの餌生物供給ポテンシャルについて質的・量的な評価を行い、数値化する。

(6) 検討委員会等の資料作成

調査結果等を整理し、検討委員会及びワーキンググループに報告する資料を作成する。